報告事項③

（案）

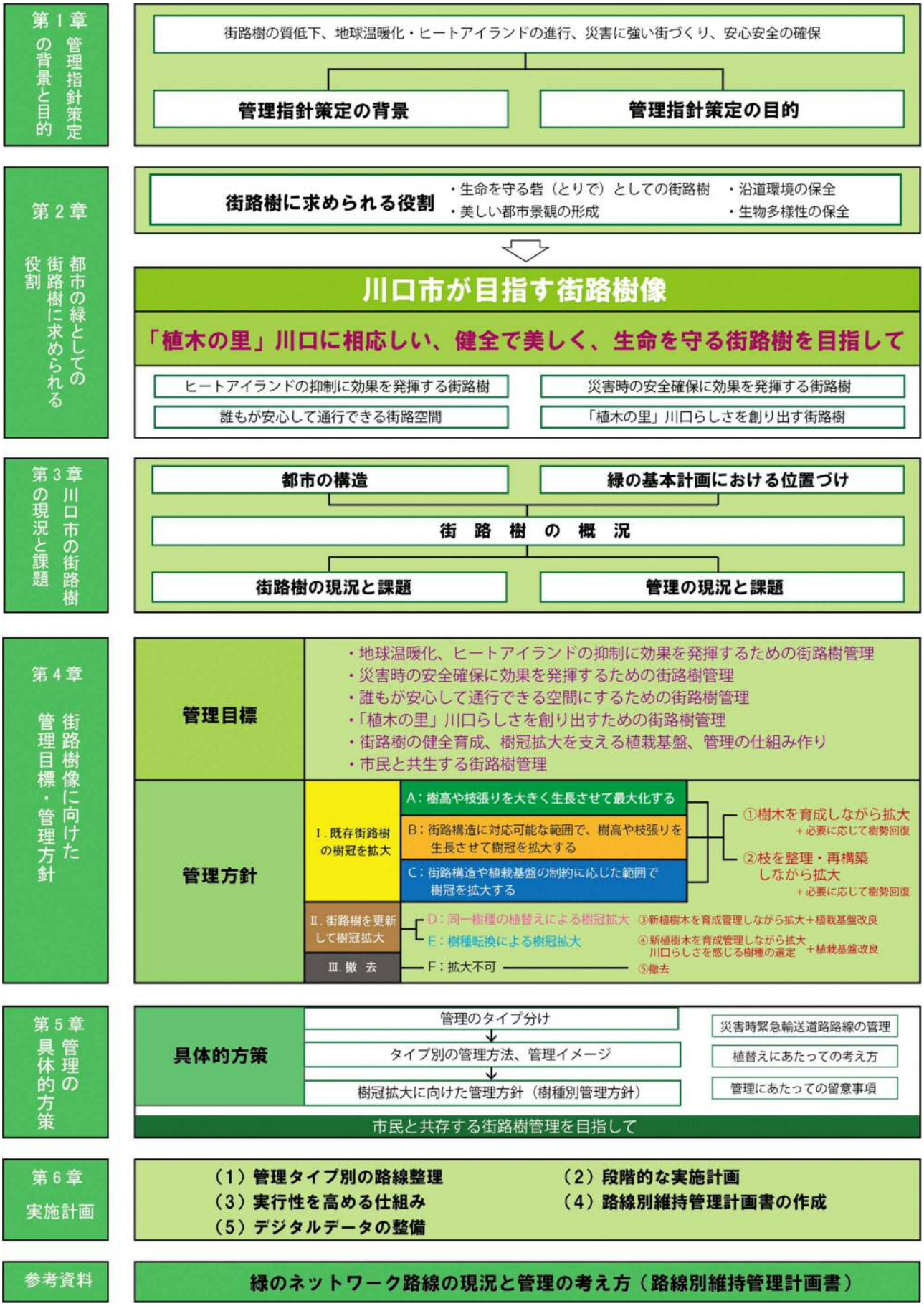
川口市樹木管理指針
【街路樹編】

概要版

令和２年４月

川口市

川口市樹木管理指針【街路樹編】の構成



第１章　管理指針策定の背景と目的

都市をとりまく環境が大きく変化している中、街中に広がる街路樹を市民の生活を守り、生命を守る緑の基盤として再生、活用することが急務になっています。しかし、近年の作業の効率化や街路樹への苦情に対応するために枝を切り詰める強剪定では、これらの要求に応えることができない状況です。

また、歩道や植栽桝の幅員が狭い場所に大きく生長する街路樹が植栽されたり、大木化や根上がりの発生による通行支障の増加など、適正な樹種選定による植え替えや撤去が必要になっている路線も増えてきています。

⇩

これらの課題に応え、「植木の里」ならではの樹木生産や管理の技術やノウハウを活かし、新たな視点による街路樹管理の考え方や方策を市民、道路整備やインフラ整備、街路樹管理等の関係者と共有し、実行できるような指針を作成することを目的とします。

第２章　都市の緑としての街路樹に求められる役割

■川口市が目指す街路樹像

地球温暖化、ヒートアイランドの抑制に効果を発揮する街路樹

・年々暑さを増すヒートアイランド現象の緩和（生命を守る）
　→大きな緑陰、連続性のある緑陰形成による舗装面の温度上昇抑制
　→緑陰をつくって夏の強い日差しと高温から身体を守る
・街路樹の健全育成、樹冠拡大による微気候の緩和、CO2 吸収量の増大
・雨水の地下浸透、涵養機能の強化による都市洪水、温度上昇の抑制

災害時の安全確保に効果を発揮する街路樹

・大地震が発生した際の被害抑制、生命を守る
　→放射熱の吸収による火災の延焼防止
　→建物や壁等の倒壊防止
　→延焼防止、倒壊防止による避難路、物資等輸送路の確保

誰もが安心して通行できる街路空間

・植栽環境（歩道や植栽帯の幅員、土壌条件等）に応じた樹種の選定と管理
・誰もが安全に安心して通行できる空間とするための適正な管理、通路の改修
・支障となる街路樹の撤去、更新（植替え）

「植木の里」川口らしさを創り出す街路樹

・創意工夫に満ちた植木生産や品種改良、育成、管理の取組みを通した緑文化の発信
　→「植木の里」としてこれまで培った様々な技術やノウハウを発揮した街路樹管理
・他では見られない美しさや風格のある街路樹
　→新緑や開花、紅葉などの季節感、落葉後の美しい樹形を楽しめる街路樹

第３章　街路樹の現況と課題

緑の基本計画における位置づけ

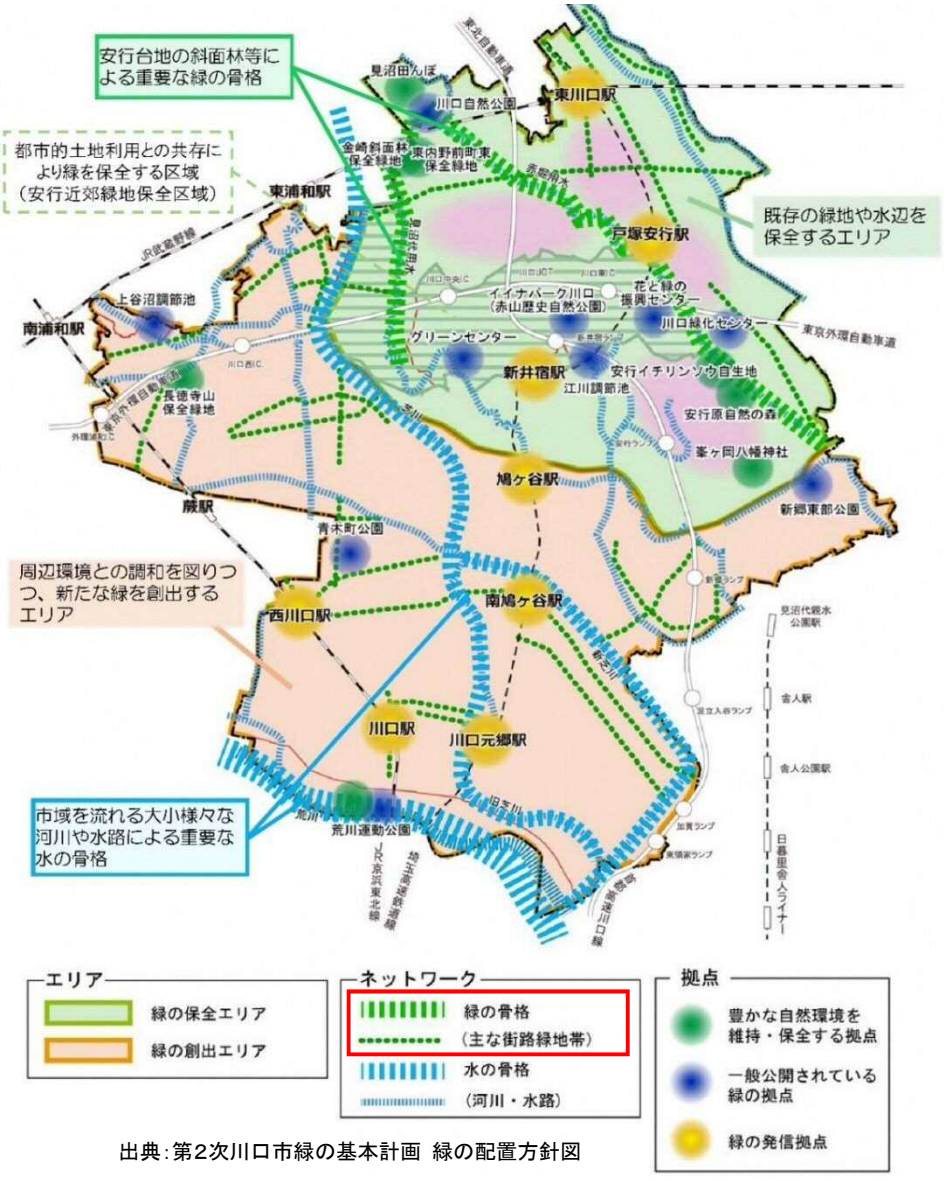
第２次川口市緑の基本計画（令和元年度）において、緑の将来像などが以下のように定められました。

- **緑の将来像**　：　水と緑といきもので四季を感じる　みんなが安らぐまち川口
- **緑の将来目標**：　美しい緑の景観づくり、貴重な緑の保全･管理、緑に親しむ環境づくり
- **街路樹の位置づけ**：

「美しい緑の景観づくり」の中で「植木の里にふさわしく、緑の美しいまちを目指すために、まちの玄関口となる場所、緑の拠点となる場所、及びそれらを結ぶ街路など、緑が多いと感じる場所を増やしていく必要がある」とされています。

- **緑のネットワーク**：

鉄道駅や河川に繋がる路線のうち 26 路線が緑のネットワークを形成する街路緑地帯として位置づけられています。**街路樹の適切な管理、健全育成により樹形の再生や樹冠拡大を行うことが緑の将来目標を実現する上で効果的**であると考えられます。



出典：第2次川口市緑の基本計画 緑の配置方針図

■街路樹の現況と課題

川口市の街路樹の中でも重要な位置づけとなっている緑のネットワーク路線の現況は以下の通りとなっています。

街路の構造

・歩道幅員３m未満の路線が全体の約４割、また歩道幅員３～４m未満の路線も約４割を占め、全体の約８割が歩道幅員４m未満の路線となっています。
・植栽基盤（植栽帯や植栽桝）の幅員は 70cm 未満が全体の約４割、70～100cm が約半数となっています。
・歩道幅員、植栽基盤ともに、大きく生長する種類の街路樹を植栽する環境としては恵まれた条件でありません。

樹種選定

・歩道や植樹帯が狭い路線にイチョウやケヤキなどの大きく生長する種類の街路樹が植栽されたり、ハナミズキのように下枝が大きく広がる街路樹が植栽されています。
・一方、道路や歩道幅員が広い路線に生長が遅く、あまり大きくならないハナミズキが多く植栽されています。
・地下水位の高い場所にサクラが植栽されるなど、街路構造や植栽環境、土壌条件に適していない樹種が植栽されている路線があり、通行支障や樹勢低下を招いています。

占用物（架空線、埋設管）

街路樹の真上に架空線（電力線、電話線、光ケーブルなど）のある路線が多く、街路樹の生育や管理に支障をきたしています。また、街路樹の根の下に水道管やガス管などが埋設され、樹木（根）の生長と共に埋設管の破損などを招く恐れがあります。

管理（剪定）状況

落ち葉の抑制や見通し確保の観点から、枝を切り詰める強剪定が行われ、街路樹の健全育成や役割発揮が妨げられています。

生育状況

強剪定により不要な枝葉が多く発生したり、樹勢が悪化して大風や台風時の枝倒れや倒木のリスクが大きくなっています。また、強剪定により樹形が乱れ、街路景観を損ねている路線が多くあります。

第４章 街路樹像に向けた管理目標と管理方針

川口市が目指す街路樹像

「植木の里」川口に相応しい、健全で美しく、生命を守る街路樹

川口市が目指す街路樹像を実現するために、以下の管理目標を設定します。

（１）管理目標

地球温暖化、ヒートアイランドの抑制に効果を発揮するための街路樹管理

・「コンパクトに抑える」管理から「樹冠*拡大」を目指した管理へ
（街路樹管理の発想を転換）
・樹木の特性を活かし、健全育成による樹形の再生と樹冠拡大を図る
＊樹冠：枝葉が茂っている部分

災害時の安全確保に効果を発揮するための街路樹管理

・折れない、倒れない丈夫な街路樹を育成する
（切詰め剪定→優良枝の選定、育成）
・災害時緊急輸送路線での安全確保

誰もが安心して通行できる空間にするための街路樹管理

・定期的な街路樹の点検、診断実施による異常の早期発見と樹勢回復
・通行に支障をきたしている街路樹の撤去、更新(植替え)、歩道改修
（狭い空間で大きく生長した街路樹、根上がりが発生している街路樹）
・安全な通行を確保するための建築限界を確保する剪定管理
・交差点や信号、交通表示の見通しに配慮した支障枝の適正管理
・架空線や埋設管に支障のないよう配慮した樹冠拡大
・ツリーガード等による歩道部分の確保

「植木の里」川口らしさを創り出すための街路樹管理

・植木の里として多様な樹木を生産してきた経験を踏まえ、植栽環境に応じた適切な街路樹の選定（新規植栽、植替え時）
→植栽基盤(歩道･植栽帯幅員)、環境適合性(日当たり、通風)、環境圧の耐性、維持管理、季節感などに応じた樹種選定
・街路樹の魅力（新緑や開花、紅葉等）を楽しめるような街路樹管理
・他では見られない美しい樹形や風格をつくりだす街路樹管理

街路樹の健全育成、樹冠拡大を支える植栽基盤、管理の仕組みづくり

・植栽基盤の充実（健全育成の基盤づくり）
・道路占用物の調整（樹冠拡大を阻害しない環境づくり、インフラ事業者との調整）
・街路樹管理の仕組み、体制の改善（発注の仕組み、積算見直し等）
・管理技術向上の推進（維持管理計画書の作成、剪定講習会の開催等）

市民と共生する街路樹管理

・苦情対応、苦情防止型の管理から街路樹の魅力を発揮、伝える管理へ
・新緑、花や結実、紅葉、落葉樹形など街路樹の魅力や美しさを楽しめる管理
・市民理解の促進（周知、説明、意見交換、合意形成）

（２）管理方針

Ⅰ.既存の街路樹の樹冠を拡大

街路構造や植栽基盤の状況を踏まえ、健全育成、樹高と枝張りのバランスを図りながら樹冠を拡大します。

Ａ：樹高や枝張りを大きく生長させて樹冠を最大化する

・植栽空間や植栽基盤が広く街路樹の生長に制約がないので、樹高を高くし、歩道と車道の両方に大きく樹冠を拡大する

Ｂ：街路構造に対応可能な範囲で、樹高や枝張りを生長させて樹冠を拡大する

・街路構造に応じた範囲で樹高と枝張りのバランスを図りながら、歩道と車道の両方に樹冠を拡大する

Ｃ：街路構造や植栽基盤の制約に応じた範囲で樹冠を拡大する

・街路構造や植栽基盤に制約があるものの、樹高と樹冠のバランスを図りながら、車道側と縦断方向に樹冠を拡大する

Ⅱ.街路樹を更新(植替え)して樹冠を拡大

既存の街路樹を撤去、基盤の改善を行った後、新たに街路樹を植栽、育成しながら樹冠拡大を図ります。

Ｄ：同一樹種の植替えによる樹冠拡大

・樹形や樹勢が良好でないため、現況樹木で植替えをした後、育成型の管理により樹冠拡大を目指す

Ｅ：樹種転換による樹冠拡大

・街路構造や植栽環境に応じた適切な樹種を選定して植替え、育成型の管理により樹冠拡大を目指す
・大木化したり、老木化して通行や安全管理に支障を及ぼす樹木の植替えを行う
・樹種転換に際しては、四季の彩り（新緑や開花、紅葉、結実など）や落葉樹形の美しい樹種を候補として選定する

Ⅲ.街路樹（高木）を撤去

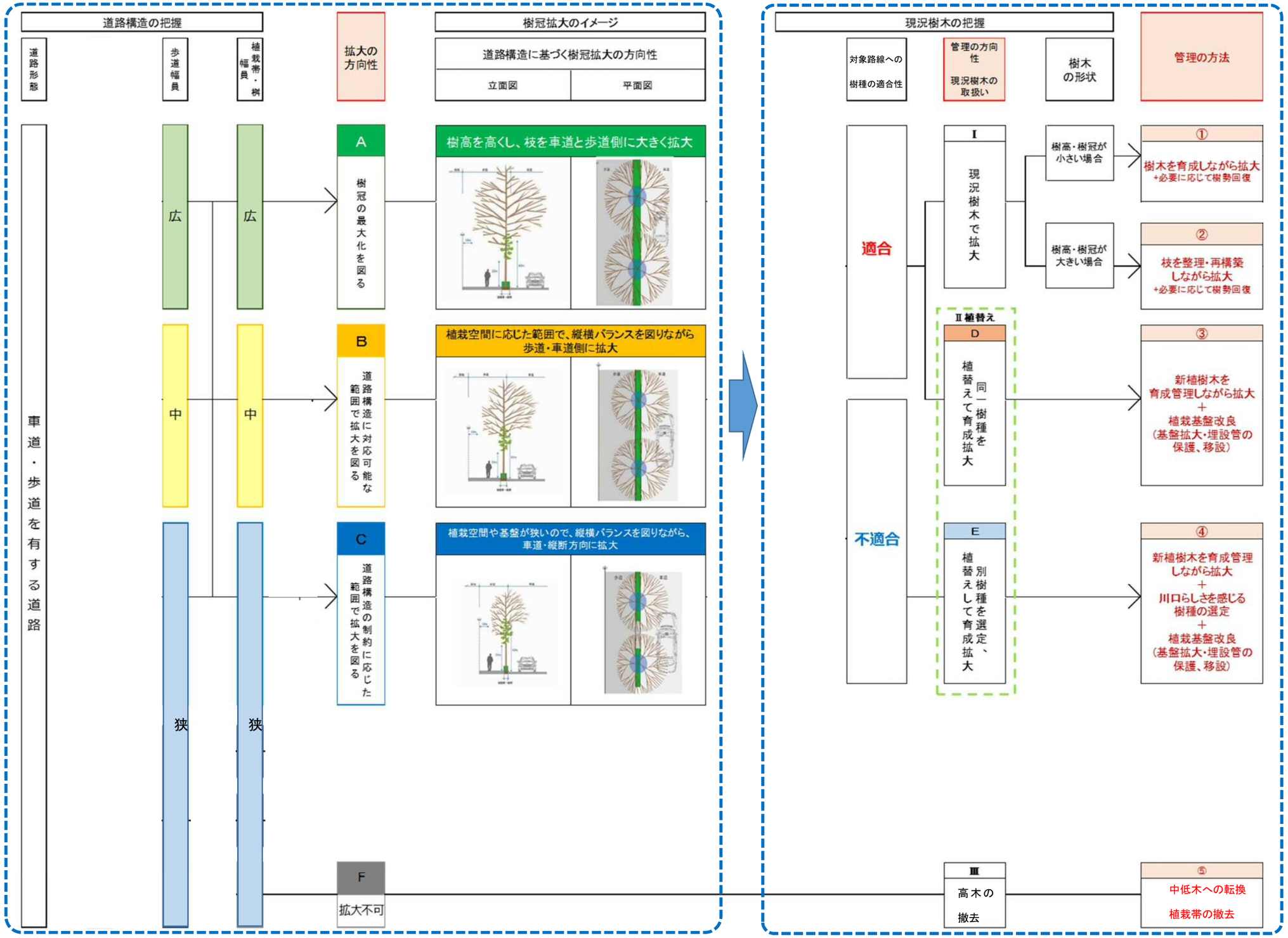
Ｆ：低木化や植栽帯撤去

・街路樹（高木）を植栽するには狭小な街路構造であるため、生長と共に歩道空間を圧迫したり、根上がりなどにより通行に支障を引き起こし、安全に通行することができない高木の街路樹を撤去する
・街路樹（高木）を撤去した後、低木への転換や植栽帯の撤去（舗装化）を行う。また、根上がりにより生じた歩道の不陸（凸凹）を改修する。

第５章　管理の具体的方策

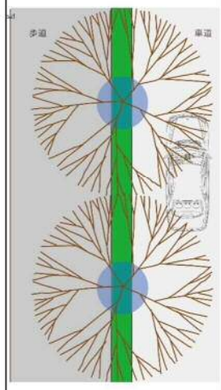
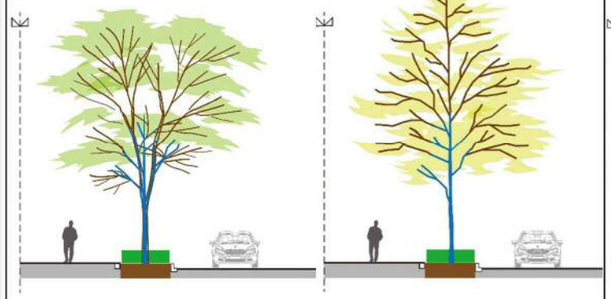
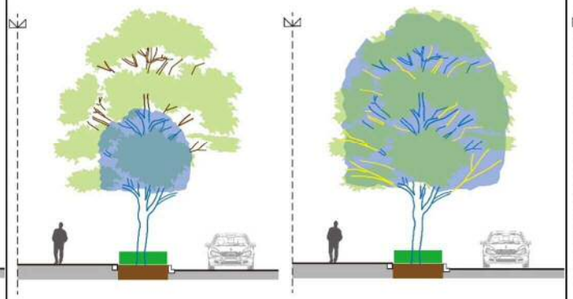
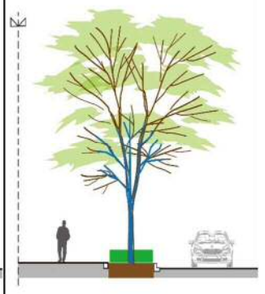
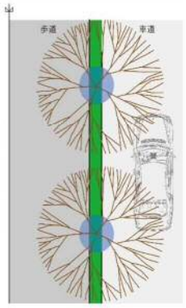
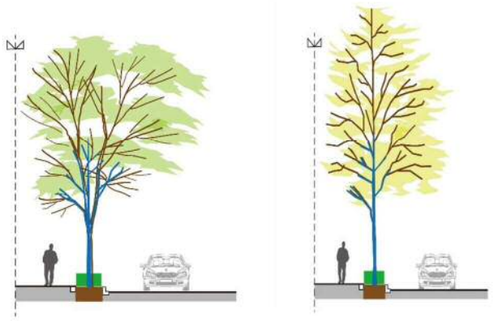
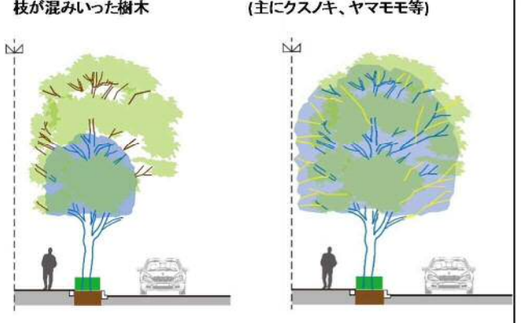
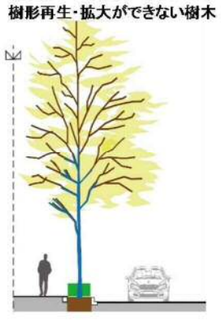
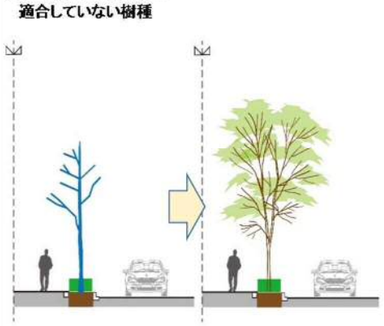
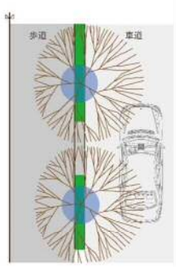
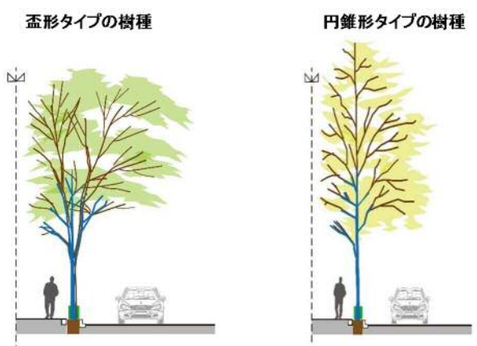
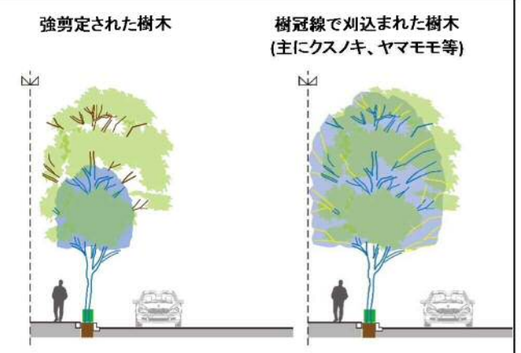
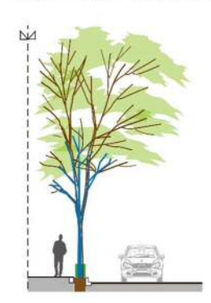
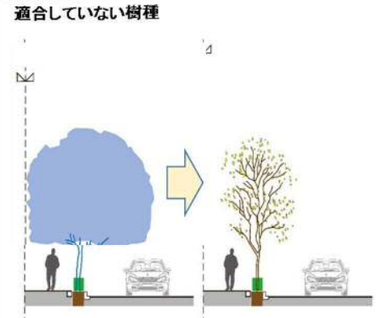
（１）管理のタイプ分け

道路構造に応じた樹冠拡大の方向性の定め方や、その方向性に向けた具体的な管理方法を検討する手順（フロー）を以下に整理します。



※通行性、安全性を確保するために
中低木への転換や植栽帯の撤去をする。

（２）タイプ別の管理方法、管理（樹冠拡大）イメージ

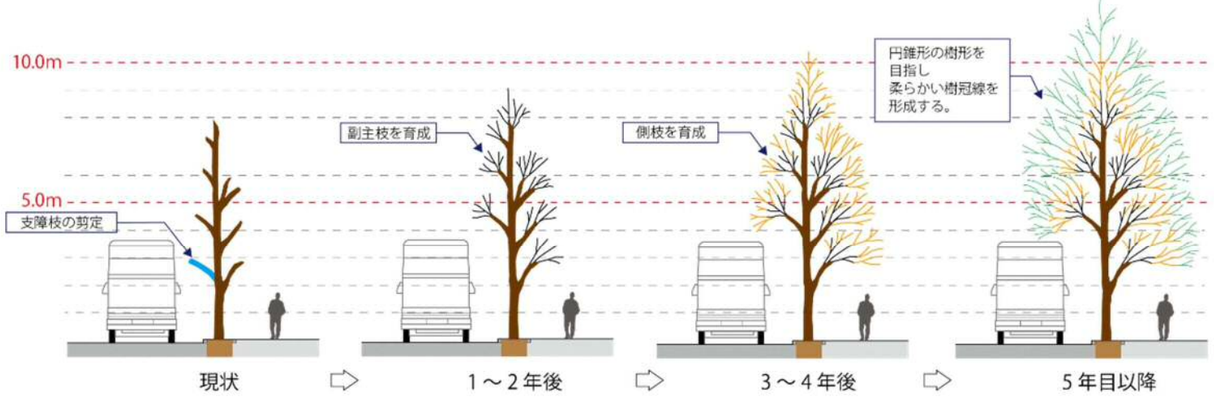
		平面的な拡大イメージ	①樹木を育成しながら拡大	②枝を整理しながら拡大	③同一樹種	④樹種転換
A	樹冠最大化 植栽空間・基盤が広いので、樹高を高くし、枝を車道と歩道側に大きく拡大		盃形タイプの樹種 (主にケヤキ等) 円錐形タイプの樹種 (主にイチョウ、ハナミズキ等)  ・強剪定で切詰めた枝を伸ばしながら、樹冠拡大に有効な枝を選別、育成する ・主枝・副枝・側枝を再構成しながら折れにくい枝、柔らかい樹冠線を形成し、樹高とともに樹冠の最大化を図る ・樹種の自然樹形や縦横比のバランスを図りながら樹冠の最大化を図る	強剪定されて 枝が混みいった樹木 樹冠線で刈込まれた樹木 (主にクスノキ、ヤマモモ等)  ・強剪定で萌芽して混みいった枝から主枝になる枝を選定、他の枝を整理（間引き）ながら、樹形再生、樹冠最大化を図る ・樹冠線で刈り込んだり、樹冠が大きくなりすぎている場合は、樹冠内の混みいった枝や枯枝を整理(間引き)しながら、樹形再生、樹冠最大化を図る	強剪定により樹勢が衰えたり、 樹形再生・拡大ができない樹木  ・建築限界上部で樹冠を形成するよう、早い段階から支障下枝を除去して樹形作り、拡大を図る	該当なし
B	道路構造に対応可能な範囲で拡大 植栽空間に応じた範囲で、縦横バランスを図りながら歩道・車道側に拡大	 縦横バランスを図りながら、歩道・車道側に樹冠を拡大する	 ・強剪定で切詰めた枝を伸ばしながら、樹冠拡大に有効な枝を選別、育成する ・主枝・副枝・側枝を再構成しながら折れにくい枝、、柔らかい樹冠線を形成し、樹高とともに樹冠の最大化を図る ・縦横バランスを図りながら、歩道・車道側に樹冠を拡大する	強剪定されて 枝が混みいった樹木 樹冠線で刈込まれた樹木 (主にクスノキ、ヤマモモ等)  ・強剪定により萌芽して混みいった枝から主枝になる枝を選定、他の枝を整理（間引き）ながら、樹形再生、樹冠拡大を図る ・樹冠線で刈り込んだり、樹冠が大きくなりすぎている場合は、樹冠内の混みいった枝や枯枝を整理(間引き)しながら、樹形再生、樹冠拡大を図る ・縦横バランスを図りながら、歩道・車道側に樹冠を拡大する	強剪定により樹勢が衰えたり、 樹形再生・拡大ができない樹木  ・建築限界上部で樹冠を形成するよう、早い段階から支障下枝を除去して樹形をつくり、歩道・車道側に樹冠を拡大を図る ・植替え時に植栽基盤の改善を図るとともに、早い段階から適切な剪定、育成管理を行う	道路構造や植栽環境に 適合していない樹種  ・道路構造や植栽環境に適合した樹種を選定して植え替える ・建築限界上部で樹冠を形成するよう、早い段階から支障下枝を除去して樹形をつくり、歩道・車道側に樹冠を拡大を図る ・植替え時に植栽基盤の改善を図るとともに、早い段階から適切な剪定、育成管理を行う
C	道路構造の制約に応じた範囲て拡大 植栽空間や基盤が狭いので、縦横バランスを図りながら、車道側・縦断方向に拡大	 車道側・縦断方向に樹冠を拡大する	盃形タイプの樹種 円錐形タイプの樹種  ・強剪定で切詰めた枝を伸ばしながら、樹冠拡大に有効な枝を選別、育成する ・主枝・副枝・側枝を再構成しながら折れにくい枝、柔らかい樹冠線を形成し、限られた生育空間や植栽基盤の範囲で車道側、縦断方向に樹冠を拡大する	強剪定された樹木 樹冠線で刈込まれた樹木 (主にクスノキ、ヤマモモ等)  ・強剪定により萌芽して混みいった枝から主枝になる枝を選定、他の枝を整理（間引き）ながら、樹形再生、樹冠拡大を図る ・樹冠線で刈り込んだり、樹冠が大きくなりすぎている場合は、樹冠内の混みいった枝や枯枝を整理(間引き)しながら、樹形再生、拡大図る ・限られた生育空間や植栽基盤の範囲で、車道、縦断方向に樹冠を拡大する	強剪定により樹勢が衰えたり、 樹形再生・拡大ができない樹木  ・建築限界上部で樹冠を形成するよう、早い段階から支障下枝を除去して樹形づくり、車道側・縦断方向に樹冠を拡大する ・植替え時に植栽基盤の拡充を図るとともに、早い段階から適切な剪定、育成管理を行う	道路構造や植栽環境に 適合していない樹種  ・道路構造や植栽環境に適合した樹種を選定して植え替える ・建築限界上部で樹冠を形成するよう、早い段階から支障下枝を除去して樹形づくり、車道側・縦断方向に樹冠を拡大する ・植替え時に植栽基盤の拡充を図るとともに、早い段階から適切な剪定、育成管理を行う

樹冠拡大に向けた管理方針（樹種別管理方針）

■樹種別管理方針　イチョウ　①樹木を育成しながら拡大

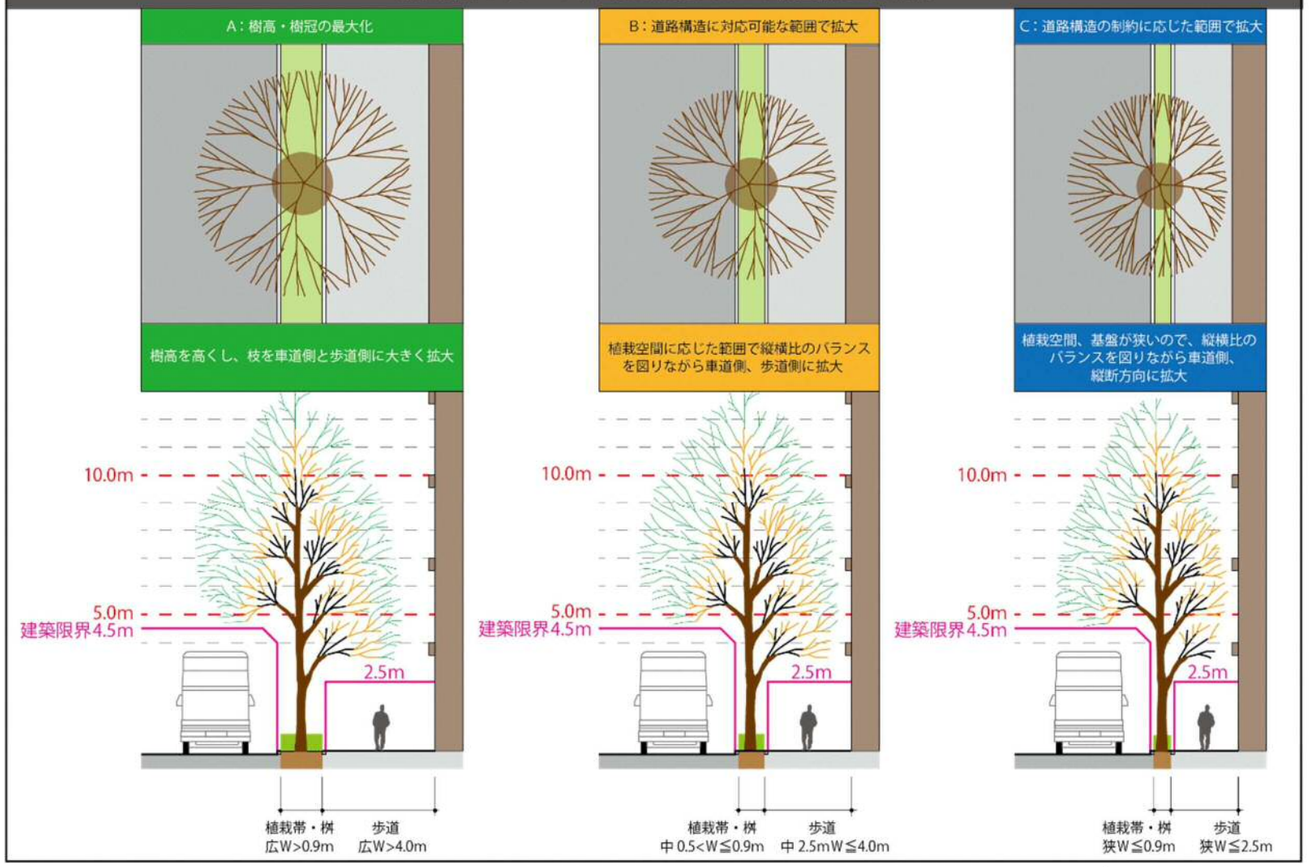
・強剪定で切り詰めた枝を伸ばしながら樹冠拡大に有効な枝を選別し育成する。
・主枝、副主枝、側枝を再構築しながら折れにくい枝、柔らかい樹冠線を形成し、樹高と共に樹冠の最大化を図る。
・縦横比のバランスを図りながら円錐形の樹形を目指し、樹冠の最大化を図る。

樹形の作り直しの経年変化想定イメージ図



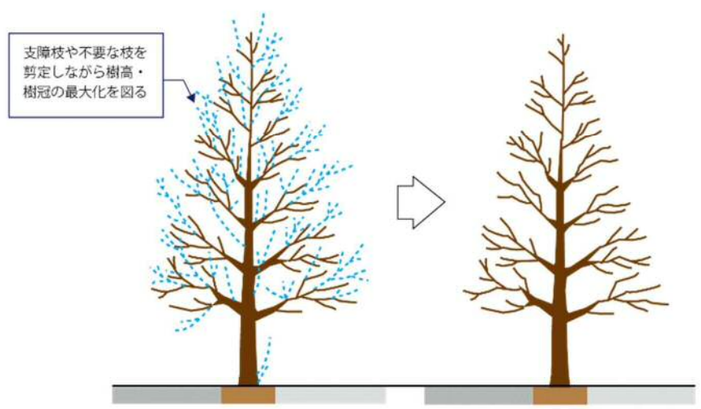
樹形の作り直しの経年変化想定イメージ写真

樹冠拡大のイメージ図　道路構造に基づく樹冠拡大の方向性



剪定の考え方

・冬期剪定では樹高・樹冠が大きくなるように基本的な骨格剪定を行う。
・夏期剪定では切りすぎに注意し、柔らかい樹冠線を作りだす。
・芯は止めずに最大樹形になるまで幹ををを立て先端まで直立させる。
・新生枝はできるだけ切り詰めないで、適当な長さの外枝のところで切返剪定を行う。
・徒長枝、さかさ枝、やごなどは原則として切り取る。



剪定イメージ

（４）市民と共存する街路樹管理を目指して

これまでの街路樹管理は、落ち葉の発生を抑制するための強剪定（枝を短く切り詰めえ）や落葉前の葉をむしり取るなど、街路樹の健全育成や四季折々の彩りを楽しむといったことから離れたものでした。

街路樹は単に道路の付属物として植えられたものではなく、健全に大きく生長した街路樹は車道の騒音や粉じんから私たちの生活環境を守り、四季折々の彩りや季節感を与えてくれます。

今後は、震災の被害（火災、建物などの倒壊抑制、避難路の確保）や真夏の強い日差しから生命を守る街路樹の役割がますます重要となり、健全育成、樹冠拡大の取組が不可欠になります。また、魅力ある街、選ばれる街を目指して「植木の里」川口ならではの美しく、風格ある街路樹景観を目指した管理に取組むこととします。そのためには、市民の理解と連携が重要となります。

市民理解促進の取組み

・市民への周知：説明板の掲示、説明会の開催
・意見交換　　：街路樹管理に関するシンポジウムや意見交換会の開催
・街路樹の魅力アップ：イチョウの黄葉や季節の彩り（新緑、開花など）を楽しめるような樹形や花付きを考慮した管理の推進
→落ち葉を楽しめる（愛でる）気持ちの醸成

イチョウの黄葉と落ち葉の絨毯

市民との協働による街路樹管理

・愛護会の支援強化　：清掃用具貸出の充実
愛護会の集いや意見交換会等の開催

落ち葉

・落ち葉袋の提供と回収
市民や愛護会が収集した落ち葉を入れる「地域清掃ごみ袋」の提供と落ち葉を入れた袋の市回収
・道路清掃
落葉期の清掃回数の見直し（回数増）

地域清掃ごみ袋の提供と回収

環境保全に対する理解の促進

・生物多様性を保全する生息空間としての重要性
・地球温暖化やヒートアイランド現象を緩和するための役割

第６章　実施計画

（１）管理タイプ別の路線整理

新たな管理の考え方を計画的に実施していくために、「第５章 樹冠拡大に向けた管理の具体的方策（１）管理のタイプ分け」に示した流れ（フロー）」をもとに対象路線の管理のタイプ分けを行います。

そして、管理タイプ別の総量（路線数、樹種別本数など）を明らかにして、優先度の高い路線から段階的に実施するものとします。

モデルケースとして「緑のネットワーク路線」をタイプ分けした一覧を以下に示します。

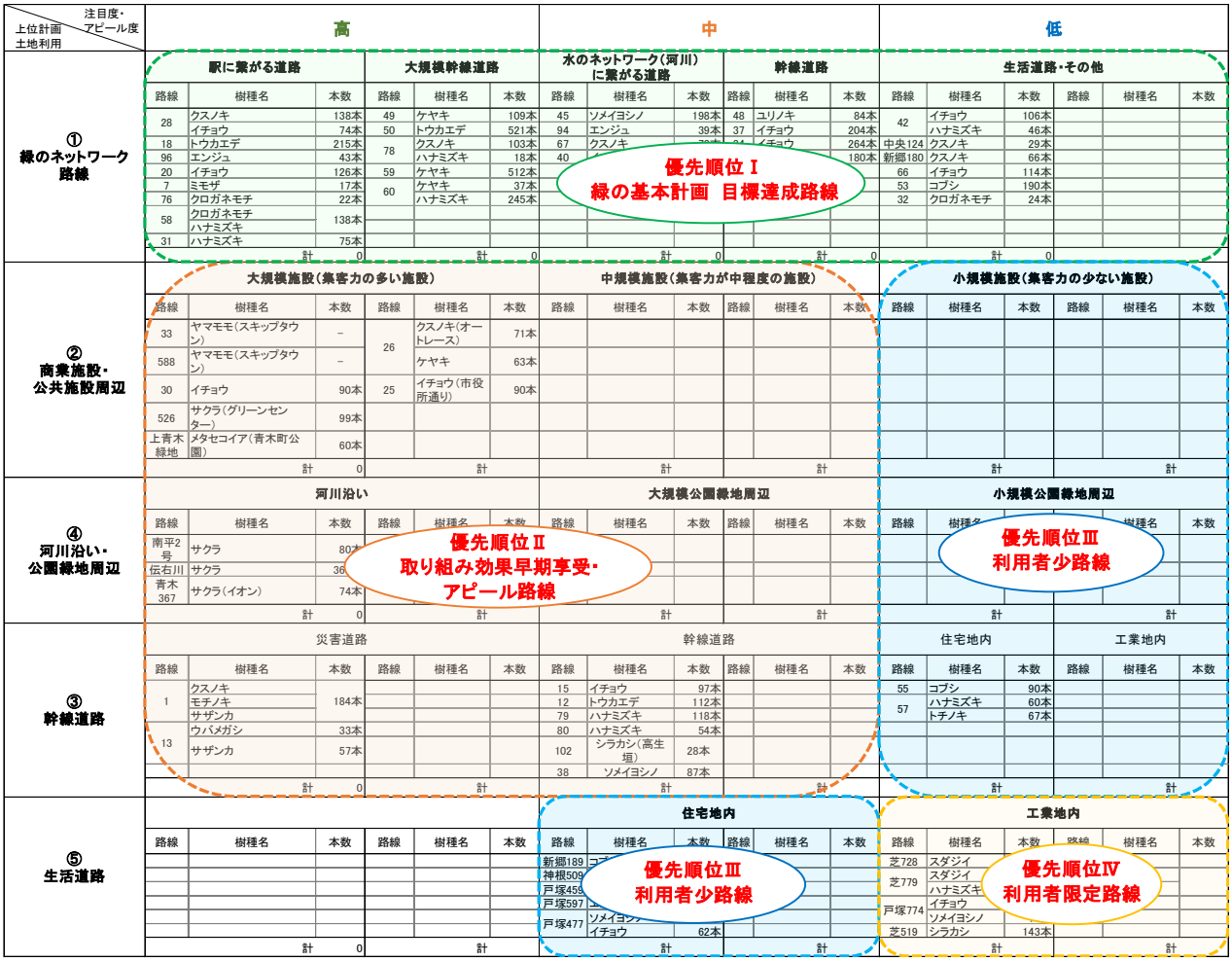
段階的に実施するための考え方を次頁「（２）段階的な実施計画」に示します。

	①枝を育成しながら拡大			②枝を整理しながら拡大			③同一樹種を植替えて拡大			④樹種転換して拡大			⑤撤去			計
	路線名	樹種名	路線数	路線名	樹種名	路線数	路線名	樹種名	路線数	路線名	樹種名	路線数	路線名	樹種名	路線数	
A 樹冠を最大化	37	イチョウ	4	26	クスノキ	5	49	ケヤキ	1							10
	58	クロガネモチ		7	ミモザ											
		ハナミズキ			ヤマモモ											
	60	ハナミズキ		上青木緑地	メタセコイア											
	78	ハナミズキ		60上り	ケヤキ											
B 道路構造に応じた可能な範囲で拡大	78	クスノキ	13	67	クスノキ	7				42	イチョウ	3				23
	76	クロガネモチ		180	クスノキ					45	ソメイヨシノ					
	16上り	シラカシ		28	クスノキ					48	ユリノキ					
	16下り	シラカシ		59	ケヤキ											
	34	イチョウ		60下り	ケヤキ											
	40上り	イチョウ		53	コブシ											
	40下り	イチョウ		神根526	サクラ											
	94	エンジュ														
	18	サルスベリ														
	18上り	トウカエデ														
	18下り	トウカエデ														
	31	ハナミズキ														
	50	トウカエデ														
C 道路構造の制約に応じた範囲で拡大										32	クロガネモチ	6				6
										20	イチョウ					
										66	イチョウ					
										96	エンジュ					
										26	ケヤキ					
										42	ハナミズキ					
D 拡大不可													中央124	クスノキ	1	1
計			17			12			1			9			1	40

（２）段階的な実施計画

街路樹の立地や位置づけにもとづき新たな管理の効果が高いと考えられる路線から、優先順位を明確にして、段階的に実施するものとします。
優先順位付けの考え方を以下に整理します。

・優先順位Ⅰ：緑の基本計画の目標達成に効果を発揮する路線
　→緑のネットワークとして位置づけられた路線
・優先順位Ⅱ：利用者や通行量が多く、新たな取り組みの効果を早期に期待できる路線
　→利用者が多い大規模公共施設や公園緑地、商業施設付近の路線
　→市内を縦横断する規模の大きな幹線
・優先順位Ⅲ：利用者や通行量が少ない路線
　→利用者が少ない公共施設周辺の路線
　→住宅地に位置する生活道路
・優先順位Ⅳ：限られた車両の通行が主な路線
　→工業地に立地する生活道路



（３）実行性を高めるための仕組み（中長期的な取組み内容）

①管理の仕組み

・専門職員　：樹木管理の経験や知見を有する職員の配置
　→適切な技術指導、業務評価を行う
・管理計画書：路線や樹種ごとの管理の考え方、剪定内容、目標樹形・形状の共有を図るために作成し、管理を行う
　→目標像の共有、作業員によるバラつきの防止
・点検、診断：街路樹の状態を把握し、異常を早期に発見する
　→樹勢悪化や腐朽の早期発見、倒木・枝折れの回避に繋げる
・デジタルデータの整備：管理を行う都度、管理計画書のデータを更新して、街路樹に関する情報の蓄積、共有を図る。

②技術力の向上

・理解促進：新たな街路樹管理の考え方等の周知
　→管理マニュアルの作成、見本剪定講習会の開催
　→樹冠拡大、強風対策等に対応した剪定方法の周知
・植栽基準、基盤整備マニュアル等の作成

③植栽基盤

・樹種に応じた植栽基盤の確保（植栽帯の拡幅、植栽桝の植栽帯化など）
・根系の伸長形態に応じた植栽基盤の確保（広さ、深さ）
・根系の伸長を妨げない基盤整備(舗装時の締固め防止、舗装下への伸長空間の確保)
・土壌改良、根上がり防止策の実施

④架空線対応

・樹冠拡大に関する事業者への説明と合意形成
　→道路占用許可手続き書類に指針の内容を反映する
・街路樹管理の作業性確保、リスク軽減
　→樹冠内架空線の移設・埋設、保護管設置、保護管の可視化(樹冠内での視認性向上)

⑤地下埋設物に関する事項

・埋設物工事等で根系を傷めないよう、樹木保護区域を設定するとともに、樹木医の立会いを義務付けて街路樹の保全を図る。
・植替えのタイミングに合わせた根系の伸長に影響ない場所への移設

⑥市民理解、協力の促進

・樹冠拡大の取組み周知
　→パンフレットの作成、シンポジウム等の開催、お知らせの設置等
・苦情対応マニュアルの作成

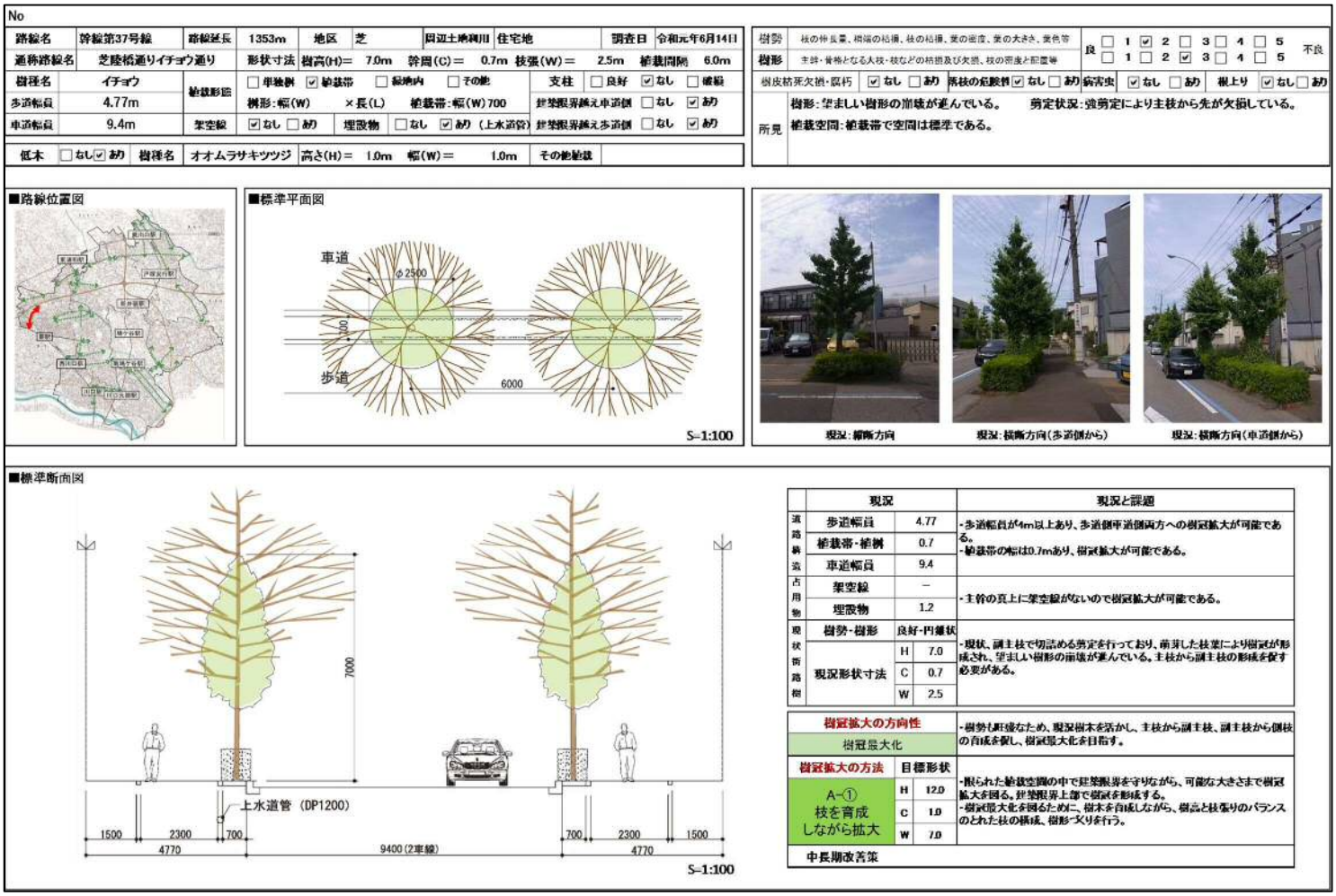
（４）路線別維持管理計画書の作成

街路樹再生を実施するために路線別の現況、目標樹形、管理方針等を整理した計画書の作成が必要

→路線請負業者が現地調査を基に作成、市担当の確認の上、とりまとめる

請負業者、市で現況、課題、目標に向けた管理方針を共有し、街路樹管理を行う

路線別維持管理計画書の作成イメージ



（５）デジタルデータの整備

全ての街路樹路線で維持管理計画書を作成し、管理を行う都度データを更新、街路樹に関する情報（管理実施日、形状、樹勢、点検結果等）の蓄積、データの共有を図る。

更新、蓄積したデータは以降の管理計画や更新計画等に反映させ、データ活用に基づく計画的な管理の実施に反映させる。

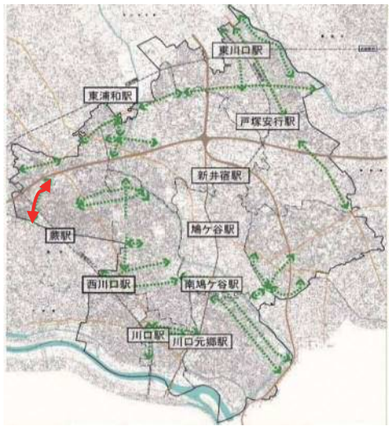
No

路線名	幹線第37号線	路線延長	1353m	地区	芝	周辺土地利用	住宅地	調査日	令和元年6月14日
通称路線名	芝陸橋通りイチョウ通り		形状寸法	樹高(H)＝ 7.0m	幹周(C)＝ 0.7m	枝張(W)＝ 2.5m		植栽間隔	6.0m
樹種名	イチョウ	植栽形態	☐単独桝 ☑植栽帯 ☐緑地内 ☐その他				支柱	☐良好 ☑なし ☐破損	
歩道幅員	4.77m		桝形:幅(W) ×長(L) 植栽帯:幅(W)700				建築限界越え車道側	☐なし ☑あり	
車道幅員	9.4m	架空線	☑なし ☐あり	埋設物	☐なし ☑あり (上水道管)		建築限界越え歩道側	☐なし ☑あり	

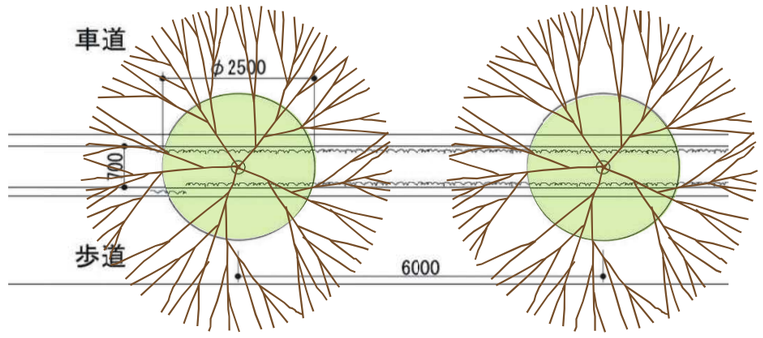
低木	☐なし ☑あり	樹種名	オオムラサキツツジ	高さ(H)＝ 1.0m 幅(W)＝ 1.0m	その他植栽

樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等	良	☐1 ☑2 ☐3 ☐4 ☐5	不良					
樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等		☐1 ☐2 ☑3 ☐4 ☐5						
樹皮枯死欠損・腐朽	☑なし ☐あり	落枝の危険性	☑なし ☐あり	病害虫	☑なし ☐あり	根上り	☑なし ☐あり		
所見	樹形:望ましい樹形の崩壊が進んでいる。 剪定状況:強剪定により主枝から先が欠損している。 植栽空間:植栽帯で空間は標準である。								

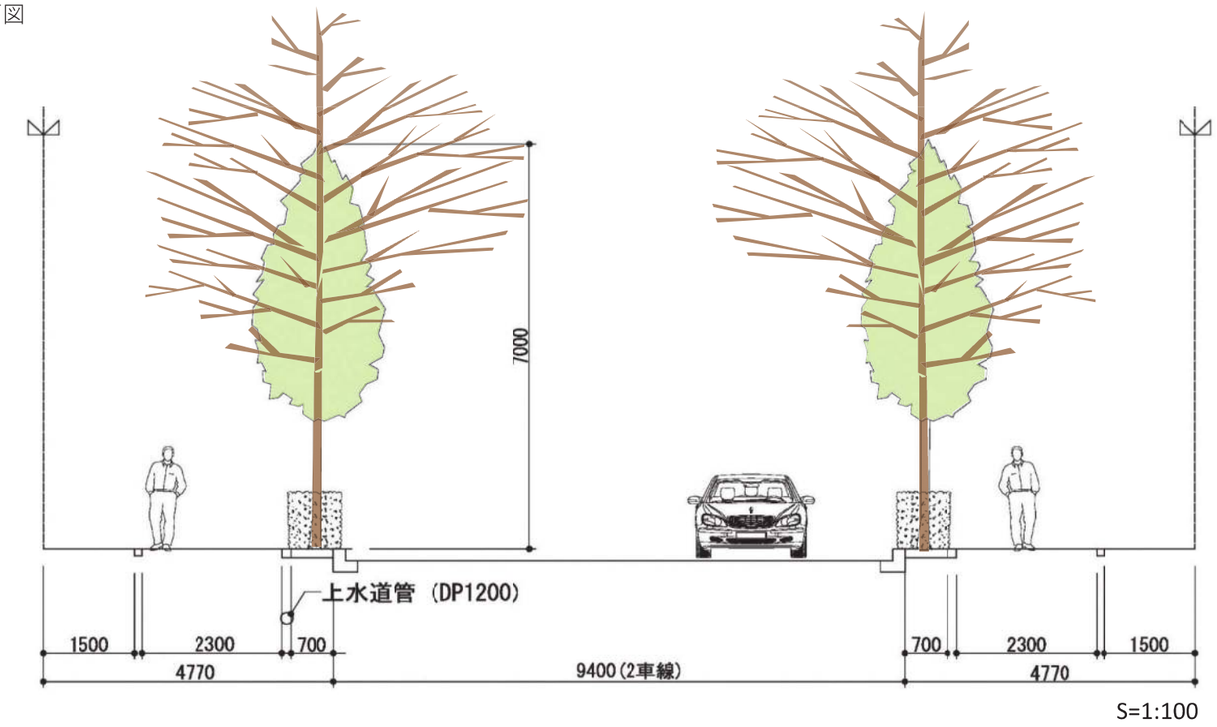
■路線位置図



■標準平面図



■標準断面図



			現況と課題
道路構造	歩道幅員	4.77	・歩道幅員が4m以上あり、歩道側車道側両方への樹冠拡大が可能である。 ・植栽帯の幅は0.7mあり、樹冠拡大が可能である。
	植栽帯・植桝	0.7	
	車道幅員	9.4	
占用物	架空線	–	・主幹の真上に架空線がないので樹冠拡大が可能である。
	埋設物	1.2	
現状街路樹	樹勢・樹形	良好・円錐状	・現状、副主枝で切詰める剪定を行っており、萌芽した枝葉により樹冠が形成され、望ましい樹形の崩壊が進んでいる。主枝から副主枝の形成を促す必要がある。
	現況形状寸法	H 7.0	
		C 0.7	
		W 2.5	

樹幹拡大の方向性 樹冠最大化			・樹勢も旺盛なため、現況樹木を活かし、主枝から副主枝、副主枝から側枝の育成を促し、樹冠最大化を目指す。
樹冠拡大の方法 育成しながら樹冠拡大	H		・限られた植栽空間の中で建築限界を守りながら、可能な大きさまで樹冠拡大を図る。建築限界上部で樹冠を形成する。 ・樹冠最大化を図るために、樹木を育成しながら、樹高と枝張りのバランスのとれた枝の構成、樹形づくりを行う。
	C		
	W		
中長期改善策			